

# 八峰CS通信

平成29年度  
第 16 号  
H29/11/24 文責 川尻  
CSデイルカ

## CS推進フォーラム（岩手会場）に参加して

11月7日文科省・岩手県共催「地域とともにある学校推進フォーラム」に参加しました。今後の八峰町CS推進に向けて大変参考になりました。概要を紹介します。

### 文科省行政説明

1. 学校と地域との「連携・協働」の必要性  
町内会などの地域活動や自然・環境保護に関する活動に対する住民の貢献意識が低下する一方、学校では不登校や暴力行為、日本語指導や特別支援が必要な児童生徒等が増加している。  
地域連携がうまくいっている学校も、貸し借り



の関係であれば、差があると不平不満につながる。開かれた学校から更に一歩踏み出し、地域住民と目標やビジョンを共有し、共に当事者となり一体となって子供達を育む「地域とともにある学校」への転換が必要である。

2. 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正(H29.4.1)

- ・学校運営協議会の設置の努力義務化
- ・学校運営への必要な支援に関する協議の役割
- ・必要なら委員を追加
- ・委員の任命に関する校長の意見申し出を規定
- ・任用に関する意見の柔軟化

議員制度等による学校評価・検証を行う「いわて型CS」を実施してきた。これからの地域学校連携・協働を見直す視点は、目標やビジョンの共有、組織や連携の仕組みの確認、役割を明確にした取組、成果や課題の共有、と考える。

実践発表  
岩手県大槌町  
小中一貫校大槌学園で9年間をつなぐ育ちと学びの手段として、「ふるさと科」と「コミュニティ・スクール」をセットで行っている。「ふるさと科」は生きる力の育成とふるさと創生をねらい、地域や自分の生き方をみつめ、大槌町の復興発展を担い、人材の育成を図る。

・複数校で一つの協議会の設置が可能に  
岩手県教委行政説明  
岩手県の地域学校連携・協働の実践として、子供・家庭・学校・地域・教育行政がそれぞれの役割と責任を果たす「教育振興運動」と「まなびフエスト」による学校教育目標具現化策の発信や学校評

望を聞き、地域の方に丁寧の説明して協力を得ることで実現している。  
岩手県八幡平市  
安代小を研究校に指定し、平成31年度に市内全校にコミュニティ・スクー

導入する。  
安代小では以前から「教育パートナー」が放課後教室での丸付けやそばん学習などのゲストティーチャーとして活動していた。これを、知・徳・体にグループ化し知育・徳育・体育に関する学習活動を支援する。  
宮城県登米市  
平成30年度をめぐり市内全小中学校にコミュニティ・スクールを導入する。これまでの実践校の成果として、学校に対する地域住民の理解の深まり、保護者や地域住民が学校に協力的、課題として、運営協議会を運営するための負担、CSの目的や活動の地域住民への一層の周知があげられる。

パネルディスカッション  
4人のパネリストから、学校と地域の連携・協働のよさや課題、課題への対応など意見が出された。一番心に残ったのは「学校も地域も○○○○になるよう、みんなが笑顔になろう活動にしたい」という言葉でした。

## 八峰中のICT授業参観～学校運営協議会研修会

11月15日「次世代の教育情報化推進事業公開授業」を学校運営協議会研修会と位置付け、中学校の取組の様子を感じていただきました。お忙しい中参加いただいた委員の皆様、お疲れ様でした。  
公開授業1で国語・数学・体育、公開授業2で理科・英語の授業を参観しました。八峰町小中学校では以前から先進的なICTを授業に導入していることで、生徒は操作に慣れており、電子黒板やタブレット、書画カメラなどの機器が効果的に活用されていました。  
授業後の東京学芸大学



「班の実験をVTRで紹介。一次関数だろうか？」

小中連携を図り小学6年を招待して、総合的な学習全体発表会（八峰中）



元気な人が多いですね！観客も大喜びで盛り上がる（町文化祭芸術発表会）